

「第3回産業日本語研究会・シンポジウム」 の開催について

平成 24 年 1 月

産業日本語研究会世話人会

顧問:長尾 真 (国立国会図書館)

代表:井佐原 均 (豊橋技術科学大学)

辻井 潤一 (東京大学/マイクロソフトリサーチアジア研究所)

橋田 浩一 (言語処理学会/産業技術総合研究所)

山崎 誠 (国立国語研究所)

隅田 英一郎 (情報通信研究機構)

横井 俊夫 (日本特許情報機構 特許情報研究所)

1. 開催趣旨

産業日本語に係る活動の具体化 ～活動の広がりとのステップへ～

「産業日本語」とは、情報を正確に伝達でき、かつ、コンピュータ処理されやすいように情報伝達力と情報発信力を強化した、産業や科学技術の記述に用いられるべき、新しい日本語の枠組みです。

産業分野・科学技術分野における情報発信力や知的生産性の飛躍に貢献するとともに、わが国産業界全体の国際競争力の強化に資するような新しい日本語の枠組みのあり方について総合的な議論を行うために、「産業日本語研究会・シンポジウム」を開催してまいりました。

第1回(平成22年2月24日)では、様々な分野における理解しやすい日本語の使用に関する取組みについてご紹介させていただき、また、「産業日本語」のあり方について議論し、その研究・開発・普及活動を先導する場としての「産業日本語研究会」の発足を提案しました。

第2回(平成23年3月2日)では、インフラ輸出、国際標準獲得、知的財産活用について、最前線でご活躍されている産業界や行政府、日本語や言語処理関係、プラットフォーム技術開発のキーとなるメーカーなどから斯界の権威を招聘し、「強い経済」実現と「元気な日本」復活に対する障壁となっている言語の問題に関して、経験、課題、そして解決の方策について報告して頂き、議論を深めて参りました。

過去2回のシンポジウムを通じて、産業日本語とプラットフォームの確立と普及が、インフラの海外展開、国際標準化戦略の推進、知的財産の積極的な取得・保護といった国策や企業の海外展開を支える基盤として、重要であることが浮き彫りになりました。

そして、昨今の時代背景として、記録的な円高が続くとともに、TPPへの参加の検討に代表される様々な経済連携の検討がなされるなど、日本を代表するグローバル企業のみならず、中小企業も含めて海外展開の必要性が増加している状況です。こうした中、日本語で書かれた各種ドキュメントを効率的に翻訳できる「産業日本語」への期待が増大しているものと考えます。

3回目を迎える本シンポジウムは、上記時代背景に基づく産業日本語への要請も意識し、産業日本語に係る活動の報告を行うとともに、その活動の具体化として、プラットフォーム等の関連技術デモ展示を含めて、その活動の広がりとのステップへ向けた可能性を感じ取ることができるよう内容を企画いたしました。

本シンポジウムが、我が国の経済の活性化と国際競争力の強化に資する「産業日本語」の研究・開発・普及に向けた活動を支援する場となるとともに、関連技術デモ展示に触れていただき、産業日本語を実感していただく場となるように、皆さまのご参加をお願いいたします。

2. 今後の活動について

(1) 産業日本語シンポジウムの開催

産業日本語に関する研究成果や活動成果を発表・情報共有する場として、年に1回程度、シンポジウムを一般公開形式で開催します。

主催: 高度言語情報融合フォーラム(ALAGIN)

言語処理学会

一般財団法人日本特許情報機構(Japio)

(2) 産業日本語研究会 Web サイトの運営・改善

産業日本語研究会の活動スケジュール、情報交換、研究会成果の公表等を行うために開設した産業日本語研究会 Web サイトを運営するとともに内容を充実するよう改善してまいります。

(3) その他

ALAGIN「産業日本語推進部会」、言語処理学会、Japio 等の各団体は、各々、産業日本語に関する研究活動を進めることとします。

各団体における活動については、産業日本語研究会 Web サイト上で、その研究成果の発表・情報交換等を行うこととします。

以上

事務局担当: 高度言語情報融合フォーラム(ALAGIN) 事務局